

危機対応科学情報発信組織準備委員会（第24期・第1回）
議事録

日時：平成30年5月9日（水）15時00分～17時00分

場所：日本学術会議 6-A（1）会議室

出席者（敬称略）：町村、三村、高橋、渡辺、杉田、萩原、今田、芳賀

欠席者（敬称略）：藤垣

議 題

（1）役員選出

- 委員長に高橋委員（3部）、副委員長に杉田委員（1部）、役員に芳賀委員（2部）が選出された。もう1名の幹事については、後日調整することとなった。

（2）本準備委員会設立の経緯説明と基礎情報の共有

- 資料1、資料2：「本準備委員会」設置について、幹事会における決定内容の説明があった（高橋委員長）。学術会議第1部～3部で横断的に取り組む課題として、危機・緊急時の科学的情報発信に平素から備える組織のあり方と体制及び制度を検討する委員会。検討結果は12月までに取りまとめて、幹事会に報告する。
- 資料3、資料4： 資料3（記録_科学者からの自律的な科学情報発信を実現する組織）は、委員会の審議結果を取りまとめて公表したもので、「3.11」を教訓に、国民に対して科学者の取るべき姿勢を示しつつ、科学者からの自律的な科学情報発信のあり方を提案したもの。資料4（報告 科学者から社会への情報発信のあり方について）は、資料3を元に作成された報告。第3部より、今田委員から内容について説明。
- 資料3、資料4の組織概念図を元に、第2段組織である科学情報発信会議（仮称）の説明がなされた。不確実性が高い時、どのような発信をすべきか、リスクを伴うと発信できなくなるので、平時から、学協会等と連携し、パニックを起こさない体制作りが必要。
- 資料5、資料6、資料7： 第1部「科学と社会のあり方を再構築する分科会」における議事要旨の紹介があった（杉田委員）。

（３）議論：今後の進め方

- 準備委員会のミッション：本委員会の目的と構成、活動内容について、提言／報告として取りまとめ、あるいは、声明として会長に要請か。
- 本委員会のイメージ：危機対応可能なメンバーを選ぶことが肝要。サロン化しては意味がない。誰が、どのようにして選出するか。
- 想定している分野として「自然災害」「原子力・産業災害」「医療・健康リスク」をあげているが、これで良いか（資料３、提案２：８ページ）。
- 中立性、妥当性が重要。意見分布も考慮する。
- 情報の出し方（制度）については、第１部で検討する。
- 第２段組織の発信方法は、Webpageを想定する。危機の際には、ここを見れば良いようにしておく。
- 不用意なバッシングを避けるためにも、個人対応ではない情報の発信窓口を作る。
- 効果的な発信のためには、メディアとの関係が重要。
- 国内外のメーリングリスト等の活用も検討。
- 学術会議の中に組織を置くことを想定するが、タイムリーな発信（緊急時は数日オーダー？）と発信内容のオーソライズ過程については、今後、検討が必要（意見分布も合わせて提示し、紹介するだけなら、問題ない？）。
- 財政支援についても検討が必要だが、まずは組織の必要性が分かる議論が必要。

（４）今後のスケジュール

- 次回（５月３０日）から、代表的な課題を取り上げて、勉強会や講演会を計画する。
- 月に２回程度開催し、１２月までにまとめる。